東京薬科大学新聞
5月号
発行所
東京薬科大学
学生新聞
八王子市堀之内
1432－1
☎0426(76)5111

バス問題のゆくえ

豊田・多摩センターバス

先頃、ある学生から、新聞会の投書箱の中へ、多摩センターバスをもっと増便してほしいとの投書があった。それによると、「平日、たとえ午前中で講義が終わっても、4時7分までバスがなく、約3時間もの時間を浪費しなくてはならない。土曜日でも、2時半のバスの後は6時まで待たなくてはいけない」というのである。そこで新聞会では、この事実を重要視し、早速、多摩センターバスを利用している幾人かの学生にインタビューしてみたところ、誰もが皆同じような不満を抱いていることがわかり、と同時に、豊田バスについても似たような問題があることが明らかになった。

豊田バスにおける問題点とは、最近朝の混雑が目立ってきていることであり、これは、わずか3台の、しかもマイクロバスによる運搬が原因と考えられる。すなわち、利用者のわりに、バスの運搬能力が低いのである。したがって、その解決手段としては、バスを増便するか、大型化にするかということになってくるわけであるが、豊田バスにおける現状は、朝9時8・15分の2本に学生が殺到しており、本来この2本には回数券が利用できないにもかかわらず、回数券で乗車している学生がいるのである。このことについて執行委員会では、「かつて、豊田バスは定員制だったのだが、一昨年の学生大会で、時差通学による回数券の利用を許可した。あれ以来、だいぶ時間がたっているから知らない学生が多いのではないか。今後もっとアピールしたい。」といっている。それでも、豊田バスの増便・大型化は、学生の望むところであり、大型化に関しては執行委員会が数年前から大学側と交渉を続けている。

多摩センターバスは、昨年開通し、今春、朝一本、夕二本増便したばかりで、利用者も少ない。「去年、試験運転をして今日に至っているからと執行委員会も増便は難しいという。けれども、「バスの時刻を改正して、学生が利用しやすいようにしてみてはどうか」などの意見も出ているため、「そのような時刻改正案については、今度、正式にアンケートをとって考えたい。」と積極的だ。

さて、このような問題を大学側はどう考えているのか。バス会社と大学との直接の窓口である法人室で話を聞いてみた。

「豊田バスの増便は、昨年2本から3本にしたばかりだし、午後などは現状で十分に思えるため、今のところ何とも言えない。大型化については、道幅や道路状況から考えて無理と思われる。ただ、建設中の陸橋が完成すれば実現の方向にもっていきたい。多摩センターバスも、4月に増便したばかりであり、朝でもこれで間にあっているようだから増便はできないと思う。多摩センターバスのマイクロ化による増便は、予算的にも、契約上においても不可能に近い。というのは、運転手を大型1台に1人つけるより、マイクロ2台に2人つける方が高くつく。それに、実は、大型とマイクロでは契約会社が違う（大型は京王帝都バス事業部、マイクロは多摩京王）ため、手続きが困難化してくるのである。時刻改正については考えてみたいと思う。ただ、少数意見では収拾がつかないので、執行委員会を通して公式に発案して欲しい。」

以上の点から考えてみると豊田バスも多摩センターバスも増便の見通しは暗い。したがって、しばらくは不便な毎日が続きそうである。しかし、豊田バスの大型化は、執行委員会も、大学側も、豊田－平山陸橋の完成をもって実現させる姿勢でいるし、多摩センターバスの時刻改正についても同様な事が言える。要するに、学生の自治活動への積極的な参加と呼びかけが重要になってくるのである。昨年の教務・分科問題を思いおこしてもうなずける次第である。

最後に、多摩センターバスの現在の午後の時刻表を記載しておく。

東薬大発

	平日	土曜
PM1		00
2		30
3		30
4	7	
5	7	
6	7	70
7	0	0

新歓行事報告

学術、文化、体育部門

高尾山ハイク

去る四月十七日、恒例の学術部門主催の新歓ハイクが行われたが、生憎の雨天のため、高尾山から多摩動物公園へと変更。このせいか、新入生の参加は予定の約三分の一と寂しい出足となった。又、下見不十分により多少不手際も生じていたが、急遽編成された班ごとに公園内を一週した。その間「風船割りゲーム」の地点を通り抜け、お客に必死に愛嬌を振りまく動物達を横目にしながら、最終地点に到着。そこで恒例の「アッチ向いてホイ」や尻相撲大会が行われ、各班代表者が競い合った。参加者百名余りと少人数気があふれ、他客の注目を浴びた。この奮起の反面、班の中では顔見知り同士の会話が多く、新歓ハイクの最大の目的である「新睦を深めよう！」を今一つ達せ得なかったと言う不満が、参加者間に生じたのは残念なことである。

学術研究発表会

学術部門主催、学術研究発表会が、4月23日に行なわれた。これは、各学術クラブの日頃の成果をより多くの人に知ってもらうため、又、新入生へのイントロダクションを目的としたものであった。

発表会への出席は、クラブ単位が殆どで、その出席者の投票により順位が決定された。今回は昨年と異なり初めて、OHPとスライドを使用し、文字が見ずらい等の問題が解消された。各クラブともこれらをフルに利用し、与えられた時間の中で一生懸命発表していた。

発表者の中には緊張のあまり発表事項を忘れてしまい、シドロモドロしていた人もみられたが、どの発表にも多くの拍手が送られていた。

優勝トロフィーのリボンには、新たに生研の名が加えられたが、発表内容だけでなく発表者のキャラクター性に票が集まったことも否めない事実である。

最後に、学術部門長である時光氏に今後の課題を聞いてみたところ、「これからは、内容に統一性を持たせ、学術系クラブの、又、発表会のレベルアップをはかりたい」と答えてくれた。

なお、その他の順位は次の通りである。

二位　植研
三位　化研　衛研

歩け歩け大会

去る5月8日、文化部門主催の「歩け歩け大会」が行われた。今年で2回目を迎えるこの大会への参加者は、昨年を約70名上回る約200名全員が、各クラブの部長又は副部長を班長とした、14班に組分けされ、10時40分に太国魂神社を出発。連れ立って多摩川沿いを歩くうちに、互いの心も解れ、話も弾み出した。中には、周りの雰囲気を盛り上げようと歌い出る者も現れ参加者の笑いを誘った。照りつける日ざしの中、疲れをクイズ等で紛らわせながら歩き3時30分東薬に到着。約10kmの道のりを全員完歩した。

五月晴れの中、自分の力で歩き、汗を流したことも、よき思い出となるのではないか。

マラソン大会

体育部門による恒例のマラソン大会が、五月十四日(土)五月晴れのもとで行われ、院生、職員を含め、八百名余りが参加した。昨年より参加者は増加し、やや暑いとも思われる天候の中、走り終えて渡されたジュースを美味そうに飲む者、口も聞けずにその場に倒れこむ者等、悲喜こもごもであった。この大会で、東薬生にも、日頃のフィジカルは大切だと感じたものの、例年になく棄権者が目立ったことは、今後の課題ではないだろうか。

〈男女上位者の結果〉

男子
佐藤　吉敬　35分29　サッカー
渡辺正太郎　陸上
菊本さとし　スキー

女子
小林　睦代　27分27　バスケ
羽根　愛美　生研
塩崎　順子　バスケ

薬味

女性問題が我国でメジャーであったのは、そう古い事ではない。中ビ連や女性党などの言葉に聞き憶えがあることと思う。我国の女性の地位は向上したと言われているが、実際はどうなのであろうか。

NHK放送世論調査所に、それに関する興味深い結果が出ている。

まず、家庭内においては、夫唱婦随から夫婦協同に変わって来ている。夫の考えに妻が同調していくより、お互いのやり方を取り入れていこうという意見が増えてきているのである。また、女性が職を持つことに関しては男女共、望ましいと考える人が増え、また子供ができても続けるべきだと考える人も増加している。キャリアーウーマンを目指す女性には非常に明るい話に思えるかもしれない。しかし、子供の教育については、女性を四年制の大学まで出そうと考えている人は非常に少ない。これは男子と女子の将来像の違いを物語っている。男性は社会、女性は家庭、という男中心の考え方が依然として支配的なのだ。

結婚平均年令最高といわれる東薬女性諸君、道は依然険しいようだ。

薬学研究会とは

ユ ジ ル ポ ル タ

あえて位置付けをしようとすれば、委員会。それも、自治会規約による独立した規定が特に無いことに因れば、特別小委員会という所に落ち着く。（注　特別小委員会は必要に応じて設けられる委員会で執行委員会の下に置かれる。成立乃び解散は自治委員会の承認を要す。特別小委員会の活動方針乃び決議事項は執行委員会を通じて自治委員会に提出するものとす。以上、自治会規約より）前記のような推論から薬研は特別小委員会とみなしたが、その点に関して実際に薬研にインタビューを試みた。

薬研の内部には、自分達がクラブ活動をやっているのではなく、歴とした委員会活動を行っている自覚があるのか、という問に対して、「東薬自治会の一委員会であるという意識を持っているつもりだ」との答えが帰って来た。

一方、形式上、薬研の上部機関である執行委員会に同等の質問をしてみると、「確かに薬研は手続き上、委員会という扱いになっている。しかし、執行としては薬研を現在のような状態で委員会として承認出来兼ねる。彼らのやっている活動はどう見ても学術系のクラブと変わらない。彼ら自身、委員会としての意識はあまり無いのではないか？」という見解であった。

事実は執行を支持している。昨年の薬研の活動を具体的に挙げると、毎週月曜の集会と水曜のゼミがその主たるもの。

ゼミの内容は「薬学分業」で、他には薬祭での研究発表、それに先立つ調査、夏の合宿等。それはまったく学術系のクラブの亜流で、その量・質から見ると、伝医研などの愛好会程度である。

では、なぜ実質的にクラブ的な活動しかしていない委員会を野放しにしておくのか？これについては、「何分、薬研は伝統のある委員会で、それなりの実績が無いわけでもない。少ないなりにも活動人員がいて動いている限りにおいては、無下に解散という措置も取り難い。二、三年前、意思を想便ですまそうということで、薬研にクラブになってはどうかとの申し入れをしたが実現には至たらなかった。彼らとしては室を取り上げられるのではないかとの危惧があったのだろう。執行としては、委員会としての確固とした目的を見失っている薬研を積極的に承認はできない。しかし、その既得権というものを考慮すると、黙認せざるを得ないというのが実状である」と執行は語った。

薬研を取り巻く状態がこうまで紛糾した原因、責任はどこに求めたらいいのか。執行委員会の事なかれ主義がもたらす優柔不断さもその一つだろうし、薬研という擬学術クラブ的な名称のカモフラージュ効果も見のがせない。また八王子移転後の自治会活動自体の停滞、自治委員会の数年のブランクに起因する、しわ寄せの一現象とも見ることができよう。

委員会ということに固執するなら、昨年度、自治委員会及び新聞会が再発足して活動をしていることでもあり、薬研についても、この辺で、明確な方向付けをする時期に来ているのではないか。

現在、薬研の成員は、三年四人、二年、五人、一年が一人。今年の統一テーマは「臨床薬理学」である。

執行改選

今月25、26の両日、国で言う国政選挙にもあたる自治会執行正副委員長選挙が行われている。

今年は選管委員長の立候補者受付と共に次の各氏が立候補した。

執行委員長候補
稲垣興一　2－A
同副委員長候補（男子）
佐藤章二　2－B
同副委員長候補（女子）
鎌田清美　2－B

三名共、各委員会から推薦を受けている。

執行委員長候補の稲垣興一氏は、自治会ニュースの発行回数の増加による活動報告の充実、アンケート調査や自治会箱の利用による学生意見の反映、教務問題に対しての大学側への要求乃び交渉、授業環境充実へ向けての対処等を、公約として掲げている。

従来、重要かつ身近な問題に取り組んで来ている執行委員会にも拘らず、学生の自治会への無関心は過去二年間の投票率の低さ（過去二年共53％）に表われている。

本日で投票は終了し、27日には新体制が決まる。

三候補共、ほぼ信任される見込みであり、新執行の最初の仕事は、自治会活動に無関心な学生の目を向けさせることである。

念願V達成

五月の試合結果より

陸上部

五月四日、横浜三ッ沢グランドにおいて、全国の薬大のトップレベルが集まった対抗陸上競技大会が行われた。我が大学からは十一名が参加しトラック競技七種目優勝を含め、総合で二位大阪薬大に三十点余りの差をつけ、十一年連続優勝という、輝かしい成績を収めた。

〈おもな大会成績〉

四百M　笠原　桂　53秒7
八百M　竹沢直樹　2分8秒6
四百Mリレー（青木、笠原、寺嶋、大崎）　45秒4
千六百Mリレー（寺嶋、笠原、大崎、竹沢）　3分43秒4

（以上すべて、大会新記録で優勝）

（総合結果）
トラック　九点　一位
フィールド　五三点　二位
総合成績　一四四点　一位

バスケット部

五月三～五日に行われた東日本薬学生バスケットボール大会で、男女ともに優勝した。これは五十四年以来、四年ぶりのことである。

試合結果は次の通り。

決勝トーナメント

（男子部）
東薬63－52明薬（世田谷）
東薬78－47東邦大

（女子部）
東薬88－47明薬（世田谷）
東薬70－44星薬

軟式庭球部

五月十四・十五日、山中湖において、関東学生軟式庭球春季リーグ戦が行われた。

女子・5部3位
男子・12部で優勝。

（各主将の談話）

女子・この2日間で、真黒は軟庭と言われるようになったかいがありました。

男子・ゴールデンウィークをテニスだけに打ち込んだことが、当然の結果として表れたまでです。

野球部

東薬大野球部は東都大学準硬式野球5部リーグ春季リーグ戦において対戦成績4勝1敗で優勝を果たした。これは五年ぶりの優勝であり、最優秀選手賞、最優秀投手賞、主位打者賞の三賞を独占した。また、25日、入れ替え戦を行ない、見事4部昇格を果たした。

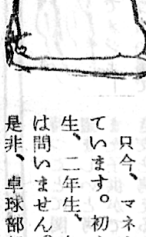
試合結果

4月10日　対国学院戦　勝
8回コールド　13－6
4月24日　対農工大　敗
延長14回　2－1
4月29日　対理科大戦　勝
7回コールド　9－1
5月3日　対電通大戦　勝
3－1（練習では負け）
5月15日　対日獣大戦
3－2

バドミントン部

関東大学バドミントン春季リーグ戦（5部Bブロック）が、4月29日、5月3日、5日、東邦大学に於て開催された。

東薬は昨年秋に、5部昇格を果たしたものの、今回は選手層の薄さが災いし、苦肉のオーダー調整もむなしく、3位という成績に終わった。



伝言板

部門展

生協談話室において、学友会文化部門主催の「学内展」を行います。期日、参加団体は次の通りです。

やきものクラブ
六月十五～三十一日

美術部
六月二十二～二十八日

華道部
六月二十九～七月五日

写真部
七月六～十二日

お昼休みのひととき、皆様どうかお誘い合わせの上、御来場下さい。

文化部門長　中原

卓球部女子

只今、マネージャーを募集しています。初心者大歓迎！一年生、二年生、年令、国籍、容姿は問いません。興味のある方は是非、卓球部部室まで！